

盛り上げ編

選手強化のための協力

各競技団体と連携した全面的な支援

JOCのゴールドプランへの協力

2000年に文部省(現・文部科学省)が発表したスポーツ振興基本計画と連動して、2001年に日本オリンピック委員会(JOC)が策定した、ジュニア期からの組織的・計画的な選手育成や、強化指定選手の一貫指導、新しい指導法の指導者への教授などにより、オリンピックのメダル獲得数の倍増を目指す計画をJOCゴールドプランと言い、札幌市としても様々な施策により支援します。

- ・ 強化合宿事業
- ・ コーチ力強化事業
- ・ スポーツ国際交流事業
- ・ 将来性を有する選手の発掘及び育成事業
- ・ スポーツ指導者の育成・活用事業
- ・ 調査研究事業
- ・ アンチ・ドーピング推進支援事業
- ・ スポーツ指導者海外研修事業
- ・ 組織基盤強化事業
- ・ 競技団体交付金事業

札幌市の支援策

大会コンセプトと連動した様々な施策によって、選手強化を全面的に支援します。

- ・ 合宿施設の整備、夏場の練習環境整備
- ・ 選手の雇用、スポンサー獲得、セカンドキャリア支援
- ・ スポーツコミッションの設立
- ・ 競技団体と連携したパラリンピック競技を含む長期的な選手強化に対する支援
- ・ 海外遠征を含めた選手支援
- ・ トップ指導者の招聘支援 など



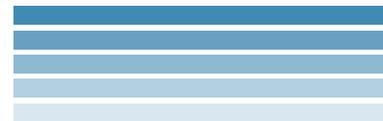
NTCの誘致と選手育成

冬季版総合ナショナルトレーニングセンター（NTC）の誘致等、冬季競技のトレーニング環境を充実させ、選手強化を全面的に支援します。

また、野球やサッカー等、夏季競技とも一体化した選手育成を支援します。

さらに、障がいのある子どもがスポーツを楽しめる環境を作り、障がい者スポーツの裾野を広げていきます。





オリンピズムをすべての人に。そして、次世代へ。

オリンピズムと文化芸術との融合

PMF※1やSIAF※2など、札幌が世界に誇る文化芸術イベントと連携した情報発信を大会前から行うことで、オリンピックの根本原則であるオリンピズムを国内外に広く浸透させていきます。

PMFにおいては、オリンピックコンサートと連携した実施方法を検討するとともに、2026年に第5回を数えることとなるSIAFにおいては、開催期間をオリンピックにあわせて実施することで、オリンピズムの精神のもと、文化芸術とスポーツが融合した多様なイベントを札幌市内全域で展開していきます。

また、ユネスコの創造都市ネットワーク※3に「メディアアーツ都市」として加盟している本市は、技術革新の目覚ましいICT等を活用し、観客が選手とともに参加できるようなインタラクティブな開会式を目指します。

さらに、「さっぽろ雪まつり」の巨大な雪氷像や、プロジェクションマッピングなども活用することに加え、メダル授与式に雪氷像を活用するなど、受賞者及び観客にとって特別なシーンを演出します。

また、各競技会場にも雪氷像を配置して関係者をお出迎えする等、降雪量の多い都市ならではの取組みにより、世界中の観光客に向けてオリンピズムを発信します。



PMF

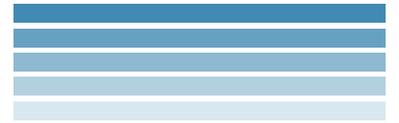
SIAF
プロジェクトFUKUSHIMA！
《フェスティバルFUKUSHIMA！北3条広場で盆踊り》
札幌国際芸術祭2014の様子 撮影：小牧 寿里

さっぽろ雪まつり

※1 PMF（パシフィックミュージックフェスティバル）
20世紀を代表する指揮者、作曲家のレナード・バーンスタインによって1990年に札幌に創設された国際教育音楽祭。オーディションで選ばれた、世界中から集まる豊かな才能を持つ若手音楽家を育成する音楽祭で、毎年7月の約1カ月間、音楽を通じた国際交流、国際相互理解に貢献している。現在までに3,200人もの優秀な音楽家を世界に輩出している。「パシフィック」は単に地理的な意味を表すものではなく、この言葉がもつ太平、平和を音楽祭の理念として掲げたもの。

※2 SIAF（札幌国際芸術祭）
3年に1度、札幌市内各所で開催される国際的な芸術祭。初回となった2014年は7月19日～9月28日の72日間に約48万人が国内外から訪れた。

※3 ユネスコ創造都市ネットワーク
デザイン、工芸、食文化など7つの創造産業分野で実績のある都市をユネスコが認定し、国際的都市間連携を支援するもの。創造産業による都市の活性化、文化多様性の理解促進、社会包摂、官民連携などを通じ、都市の持続的発展を目指す。札幌市は2013年11月よりメディアアーツ（IT・コンテンツ産業、デジタルテクノロジーを活用した表現）で加盟。



多様性を学ぶ機会の創出、多様性を尊重する心のはぐくみ

オリンピズムの目的である「人間の尊厳に重きを置く平和な社会」実現のため、北海道の先住民族であるアイヌへの理解促進とアイヌ文化の振興、パラリンピックムーブメントの発展による障がい者に対する理解促進に努めます。また、学校教育を通じて、子どものうちから民族や国、人種や性、障がいの有無といった違いを超えて人々を結び付けるスポーツの力について理解を広め、あらゆる多様性を尊重できる心を育み、共生社会を次世代に受け継いでいきます。

アイヌ文化を世界に発信

開会式にアイヌ文化のエキシビションを組み込むことで、北海道のアイヌ文化を世界に向けて発信します。

障がい者への理解促進

障がい者スポーツ大会の積極誘致により障がい者スポーツの普及・発展に尽くします。

また、障がい者を含むすべての人が安心して暮らせるよう、市民への啓発・広報を行い「心のバリアフリー」を推進します。

学校での教育活動

オリンピック・パラリンピック教育を通じて、児童生徒が世界に目を向けるきっかけを提供します。

また、アスリートの協力を得ながら、子どもたちがスポーツを始めるきっかけを作っていきます。

さらに、外国の子どもたちとのスポーツ交流を通じて、スポーツが世界共通言語であり、世界平和に貢献できることの理解を促進します。

